



河小だより



四日市市立河原田小学校
学校通信 第21号
令和5年 9月 7日(木)
文責 校長 鳥居 純樹

4月に6年生対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果が届きました。この調査により、全国や県と本校との学習状況についての実態をつかむことができます。結果だけで、判断すべきではないと考えていますが、結果を受けて本校の課題を明確にして授業改善をしていくことが大切だと考えています。6年生だけでの問題ではなく、今までの積み上げの結果として表れている部分もありますので、全学年で本校の課題をとらえて取り組んでいくことができるように全職員で分析しました。子どもたちの強みや成果が表れている部分を一層引き出しながら、取り組んでいきたいと考えています。また学力や学習状況は、学校だけでなく、ご家庭でのご協力をいただかないと定着しない部分もあります。引き続き、ご協力・ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

全国学力・学習状況調査結果について

【国語】

- 本校の平均正答率は全国平均、県平均と比較してやや低い結果となりました。
- 「知識・技能」の問題では、情報の扱い方に関する正答率が全国と県平均を上回りました。
- 「知識・技能」の問題では、言葉の特徴や使い方に関する問題の正答率が苦手な傾向が見られました。
- 「思考力・判断力・表現力」では、読むことは全国・県平均よりもやや下回り、書くことが大きく下回り、自分の思いや考えを表現することは苦手であるといえます。
- 問題の形式でも、記述式の平均正答率が全国・県平均よりも低く、苦手な傾向が見られます。

【算数】

- 本校の平均正答率は、全国・県平均と比較して低い結果となりました。
- 図形やデータの活用で平均正答率が低く、苦手な傾向が見られます。
- 算数でも記述式の正答率が低く、自分の考えを表現することが苦手という結果となりました。

【児童質問紙より】

*「国語(算数)の授業の内容はよくわかりますか?」という質問では、肯定的な回答が国語は、96%、算数が92%と高い割合になっています。しかし、結果として表れていない傾向があり、授業で深い理解につなげたり、授業の質を向上させたりする必要があるといえます。

◎生活習慣に関する質問項目では、肯定的な回答が多く、朝食の摂取や就寝・起床時刻が同じで生活習慣が確立している子が多いといえます。

*「自分にはよいところがあると思いますか」という質問項目では、否定的な回答をした人が20%います。「先生はよいところを認めてくれますか」という質問では、否定的な回答が14%と減少し、教員からの働きかけはある程度できていることがわかります。

◎「人が困っていると進んで助けますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問項目では、肯定的な回答が100%となっています。善悪の区別がしっかりできていて周りの人への優しい気持ちが表れている結果となりました。

*「学校に行くのは楽しいですか」という質問事項では、否定的な回答が20%もありました。「友達関係に満足していますか」という質問項目では、否定的な回答が14%ありました。また、「困りごとや不安について大人に相談できますか」という質問事項では、否定的な回答が、26%もいて自分だけで解決しようとしたり、悩んでいたりするケースが多いと思われます。

◎タブレットでの学習使用時間は全国や県平均を大きく上回っています。昨年度まで市や県のICT活用実践推進事業での取り組みの成果といえます。

*家庭での学習時間が1時間未満だと回答した割合が、平日は42%、土曜・日祝日は72%となっています。また「全くしていない」と回答した割合が、平日は8%、土曜・日祝日は16%となっていて、家庭での学習時間が全国・県平均よりもかなり少なくなっています。

*読書する時間は30分未満の割合が68%、「全くしない人」が28%と活字離れが深刻な状況です。本を借りて学校図書館、地域の図書館に月に1~3回程度以上行く割合が22%、ほとんど、全くいかない人の割合は50%と本を読むことに興味のない人が多い状況となっています。家庭には10冊以上の本がある人の割合が86%高い状況にもかかわらず、読書をすることは、全国・県平均よりも低い状況となっています。



【学校としての取り組み】

*授業で子どもたちが考えや思いを表現できる場面を設定し、子どもたちの考えを引き出します。

*授業で「わかっている」が本物の力になっていない。講義型の授業では、わかった気になっても本質まで理解できていないことが多いので、討議型の授業から脱却して、子どもたちが主体となる授業に変革していきます。

*長い文章を読ませて必要な情報を取り出すなど読み取ることに取り組んでいきます。

*宿題を工夫し、プラスワンなど子どもの興味関心を深めること、反復練習だけでなく、自分の考えが表れる宿題の出し方も検討していきます。

*今回の質問紙には含まれていませんでしたが、4・5年生同様、ゲームやスマホの時間が長いことが学力低下とも相関関係があるといわれています。読書週間の期間、「ノーメディアデー」を設定し、ご家庭でのご協力を得ながら、子どもたちの生活習慣を見直し、学習に取り組める時間を増やしていきたいと考えています。

*子どもたちには、「黙掃・黙働」など自制する力が弱くなっている傾向があります。引き続き、自分をコントロールできるよう、「黙掃・黙働」「チャイム席」など自分で考え行動できるような力を育成できるように取り組みを継続していきます。

学校での活動の大部分は授業です。子どもたちを育てていくのも授業が中心となります。昨年度より、授業で大切にしている「河原田っ子学力向上アクションプラン」【か考えをもつわ「わかりません」が言えるら楽することなく最後まで取り組むだ誰の意見でも最後まで聴く】を大切にしてい日々の授業を大切にしてい一人一人が安心して学べるような授業づくりをすることで、子どもたちの成長に繋げていきたいと考えています。

ご家庭での生活習慣、学習習慣の確立に対してご協力いただき、子どもたちの健やかな成長、そして将来のキャリアを見据えた学力の定着に向けてご協力いただきますようお願いいたします。

